



日本計算機統計学会

Japanese Society of Computational Statistics

NEWS LETTER

〒101-0061 東京都千代田区神田神保町3-6 池袋書院ビル5F (公財)統計情報研究開発センター内
Tel/Fax: 03-3254-7580 E-mail: office@jscs.jp URL: http://www.jscs.jp/

No. 73
2021. 4. 15



日本計算機統計学会 会長就任挨拶

NTT データ数理システム 小木 しのぶ

この度、2021年1月～2022年12月の日本計算機統計学会会長に選出いただきました。その責務の重さと自身の力不足を実感しつつも、企業の所属であり女性でもある私なりに、この学会に対して貢献できることを考え、精一杯実現していきたいと考えております。

さて、当学会は、多くの論文が掲載されている和文誌「計算機統計学」、そして、2018年から発刊された欧文誌「Japanese Journal of Statistics and Data Science(JJSD)」, 大会やシンポジウムの開催等、学会の根幹である研究の発表の場の提供を30年以上続けてまいりました。そして、計算機統計セミナーの開催によって、学会員以外の皆さまにも学会の存在のアピールと情報及び知識提供の場を作ってまいりました。さらに、学生研究発表賞や若手セミナーなど、若手研究者の活躍の場を多く提供することで、統計学の発展に寄与してきました。また、広報活動や渉外活動により、企業や他学会との接点等も持ってきました。これらは一重に、これまでの学会の活動に関わる皆さまのお力と、厚く御礼申し上げます。

このように、活発な活動を続けてきている当学会は、統計関連学会の中でも特に企業からの参加を重視しており、理事や、評議員の皆様、そして会長経験者も企業所属の方が多い学会です。これは非常に価値のあることだと感じています。そもそも学会で議論される研究成果とは、最終的には社会の課題解決に役立つべきものであり、そのためには、アカデミックの世界と実業の世界との結び付きが必要です。もちろん、将来の研究に結び付く研究というものもありますが、成果が発展していく先には、社会になんらかの形で還元される、研究とはそういうものであってほしいと思っています。そして研究者の皆様は、そのためにこそ研究に励んでいらっしゃるのではないかと思います。特に人工知能やビッグデータ、統計解析という言葉が、ビジネスマンの口から普通に語られるようになった昨今、計算機が発展し、大規模データや高次元データの扱いが容易になりつつある中、計算機統計学は世の中の重要なファクターであるともいえます。主にアカデミ

ックの世界でなされる研究が、ビジネスの世界に適用され、社会の課題解決に活用されていくためには、研究成果の発表の場である学会にとって企業との接点が欠かせません。また、企業の側も、最新の研究成果を以てより価値のあるビジネスを作り上げて、社会の課題を解決していくことが責務であるとも感じています。

そのためには学会というものが企業活動に大きなメリットをもたらす可能性があることを、正しくアピールし続けていかなくてはなりません。アピールのみならず、企業の学会参加への障壁を下げ、研究成果等の情報の流通をスムーズにし、企業の側からもそのビジネスへの適用成果を可能な限り共有できるようにすることで、アカデミックの世界からもアプローチできるような仕組みも必要になってくるでしょう。一タ一朝では実現できないことは理解していますが、1つ1つ、実現できることから進めていきたいと考えています。

そして、また、女性会員の増加は、統計関連学会の例にもれず、当学会でも課題です。もともと統計学の世界においては女性の数が少ない実情はありますが、それでも会員の数としても学会に参加される女性の数も、非常に少ない現実があります。私が会長に選出されたこと、そしてそれに対して私が女性であることを理由に何か意見をされたことがないことを考えると、当学会におけるジェンダーレスは実現されているとも思っています。これは非常に喜ばしくありがたいことです。このように学会の運営という立場でもジェンダーレスが実現されている当学会としては、女性会員や女性参加者の増加、そして活躍がしやすいはずであると考えています。女性の増加・活躍を目指すことで、学会全体、延いては統計学全体の発展に貢献するものとも考えています。

そのような当学会に対し、会長に選出していただいた私ができることとしては、企業の参加、女性の参加を促し、当学会ならではの良き文化である交流・親睦の魅力を活かしながら、多様性の実現により、計算機統計学の発展に寄与していくことだと考えています。

皆様のお力をお借りし、一步一步進んでいけたらと考えております。どうかご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

第35回大会のお知らせ

第35回大会実行委員長
あすか製薬株式会社 藤澤 正樹
第35回大会を下記の要領で開催いたします。

日程:2021年6月3日(木)～4日(金)
会場:別府国際コンベンションセンター(別府駅西口からバス
5分)
開催形式:ハイブリッド方式(現地とオンライン)
HP:<http://jscs.jp/conf/taikai35/>

大分県は全国で温泉県として知られ、とくに別府市は全国で1位の源泉数及び湧出量である観光都市として有名です。会場の別府国際コンベンションセンター(通称:ビーコンプラザ)は別府駅西口からバスで5分の場所にあり、木のぬくもりに包まれる格調高い雰囲気の会場です。また敷地内には「グローバルタワー」があり、地上100mの高さにある展望デッキからは、別府市内を一望できます。

特別講演として、お二人の先生によるご講演を予定しています。地元別府大学の学長の飯沼賢司先生には「ダイバーシティ温泉 別府の魅力」と題して、別府が多様な温泉文化を築いた歴史的な背景をご講演いただく予定です。

横浜市立大学学長補佐であり、大学院データサイエンス研究科長を兼任されている医学部臨床統計学教授の山中竹春先生(横浜市立大学)には、新型コロナウイルス既感染者を対象に行った中和抗体研究の結果に関する最新の研究成果をご講演いただく予定です。

また、「Model-Informed Drug Development」及び「がん対策におけるマイクロシミュレーションモデルの活用」をテーマにした二つの医学統計に関する特別セッションを企画しております。

当初予定しておりました懇親会は、厚労省発出の新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針(令和2年3月28日(令和3年2月12日変更))に従い、感染リスクが高まる場面に相当するため、中止とさせていただきます。

第35回大会を爽やかなものとし、計算機統計学の発展に寄与したいと考えております。新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針に則った万全の体制にて、開催したいと思っております。人数を制限しての開催となりますが、皆様のご協力をお願いしたいと思います。

参加費早期納入割引(適用期限:2021年5月14日(金))

お問い合わせ先:
日本計算機統計学会第35回大会事務局
〒108-8532 東京都港区芝浦二丁目5番1号
あすか製薬株式会社 臨床開発部
藤澤 正樹
E-mail: taikai35@jscs.jp
※E-mailにてお問い合わせ下さい。

第34回シンポジウムの報告

第34回シンポジウム実行委員長
島根大学 山田 隆行

日本計算機統計学会第34回シンポジウムは2020年11月28日(土)～29日(日)の日程で、鹿児島大学郡元キャンパスにて開催される予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たず、実行委員で協議をした結果、現地での開催を諦め、同日程でオンラインにて開催いたしました。

オンラインシンポジウム参加者は127名であり、発表は特別講演1題、特別セッション8題、一般セッション12題、学生研究発表セッション12題、スタディグループセッション3題、ソフトウェア・デモセッション1題の合計37題と、多くの発表を賜りました。オンライン開催となりましたが、2日間にわたり活発な議論がなされ、交流が行われました。

シンポジウム初日は学生研究発表セッション、ソフトウェア・デモセッション、医薬特別セッション、一般セッションが、2日目は一般セッション、スタディグループセッション、特別セッション「災害関連データ解析」に加え、特別講演が行われました。特別講演では「COVID-19に関連するデータの取り扱いと統計家の検討事項」という題目で、Pharmaceutical Product Development, LLCのJianrong Li氏にご講演いただきました。

本シンポジウムの懇親会は、オンライン開催された前回大会と同様に、Zoom懇親会を無料で開催しましたが、挨拶の後にはブレイクアウトセッションを何回か実施し、その後は自由に交流できるようにして参加者間で交流できるようにしました。

最後に、本シンポジウムを開催するにあたり特別講演をお引き受け頂いたJianrong Li氏、座長の方々、ご講演頂きました方々、ご協賛賜りました企業の方々に心より御礼申し上げます。重ねて、シンポジウム実行委員の先生方、及びオンラインによるシンポジウム運営を支援頂きました新日本科学PPDのITグループに深く感謝申し上げます。

若手セミナーの報告

若手奨励理事 東京大学大学院教育学研究科
岡田 謙介

日本計算機統計学会では、従来より学会として力を入れてきた学生奨励をさらに推進し、2017年から、大学院生などの若手を対象とした合宿形式の若手セミナーを開催しています。第4回目となる今年度は、世界的な新型コロナウイルス感染症の広がりを受け、当初予定していた岐阜県飛騨高山市での対面開催は断念し、初の試みとしてZoomを用いたオンライン形式での若手セミナーを2020年9月6日(日)、7日(月)に実施いたしました。

参加者募集は例年よりも後ろ倒しになってしまいましたが、学生25名(うち新規入会者を含め学生会員24名)、正会員10名と、昨年度とほぼ同数の参加者を得ることができました。セミナーでは、学生によるライトニングトーク25件、一般研究発表13件の発表が行われました。これまでの若手セミナーの伝統を引き継ぎ、オンライン形式の今回も、一般研究発表については1件あたり35分という、通常の学会発表よりも長めの時間を用意し、うち半分程度は質疑・議論の時間にあてて参加者間の議論や交流を促しました。また、夜に開催したオンライン懇親会では、Zoomのブレイクアウトルーム機能を活用し、様々な所属や立場の人が交流する機会となりました。

初のオンライン開催で運営として至らないところもありましたが、参加者アンケートで大多数の皆様は「よい体験だった」「次回も参加したい」と回答いただける会になりましたのはひとえにご参加いただいた皆様、また準備・開催にご尽力いただいた先生方のお陰です。ここに記して感謝を申し上げます。若手奨励理事も代替わりになりますが、今後とも若手セミナーをどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

2020年度セミナー実施報告

2020年度に3回の計算機統計セミナー(および2回の準備講座)を下記のとおり開催しましたので、報告します。

・2020年度第1回計算機統計セミナー

日時:2020年11月21(土)10:00-15:00

開催形式:Zoomを利用

表題:Rとtidyverseによるデータの前処理と可視化

講師:松村 優哉 先生(株式会社ネオキャリア)

参加者:13名

内容:Rでデータ分析をする際の基礎となる内容を

tidyverseというフレームワークに沿って解説した。具体的には、「データの読み込み」、「データの前処理」、「データの可視化」という3つの内容を扱った。

・R準備講座

日時:2020年12月3日(木)10:00-12:00

開催形式:Zoomを利用

表題:はじめてのEZR

講師:谷岡 健資 先生(同志社大学)

参加者:9名

内容:内容:EZRの使用方法を説明し、統計解析を実施する前の準備として必要なデータ・ハンドリング技術を説明した。

・2020年度第2回計算機統計セミナー

日時:2020年12月3日(木)14:30-17:00

開催形式:Zoomを利用

表題:臨床研究における試験デザインと解析方法

[実習付き]

講師:谷岡 健資 先生(同志社大学)

参加者:6名

内容:EZRを利用した統計解析手法を説明し、生存時間解析、ロジスティック回帰解析を含めた多変量解析を扱った。また、EZR利用時の留意点について説明した。

・Python準備講座

日時:2020年12月20日(日)10:00-12:00

開催形式:Zoomを利用

表題:はじめてのPython

講師:大草 孝介 先生(横浜市立大学)

参加者:26名

内容:はじめてPythonを使う方を対象に、Pythonによるプログラミングを説明した。簡単なプログラミング方法から、Pythonを用いたデータ解析で必要となるデータの読み込み、抽出などのデータ・ハンドリング法、またデータ理解する上で重要な可視化法などを具体的に解説した。

・2020年度第3回計算機統計セミナー

日程:2020年12月20日(日)13:00-16:00

開催形式:Zoomを利用

表題:Pythonによるデータ分析

講師:大草 孝介 先生(横浜市立大学)

参加者:23名

内容:Python を用いたデータ解析法の説明と演習を実施した。教師あり学習モデルである RandomForest と深層学習を取り扱い、それぞれについて簡単なアルゴリズムの理解と Python 上での実行の仕方を説明した。演習には Scikit-learn ライブラリと Keras ライブラリを使用した。

学生研究発表賞受賞者より

第 34 回シンポジウムで学生研究発表賞を受賞された方よりコメントを頂きましたので、ご紹介いたします。

「学生研究発表賞」を受賞して

同志社大学大学院文化情報学研究科 浦上 新太

この度、日本計算機統計学会第 34 回シンポジウムにおきまして、学生研究発表賞を賜り、身に余る光栄に存じます。今回のシンポジウムで、私を含め、数ある発表を審査していただいた学会賞審査委員の皆様にご心より御礼申し上げます。

今回の受賞に繋がった研究は、宿久洋教授と谷岡健資助教のお力添えによって発表できたものであり、私のために多くの時間を割いていただきました先生方には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また多くの助言や研究の支援をしていただいた統計科学研究室の皆様にも感謝を申し上げます。

本発表では、「クラスタリングを伴う joint lasso」という題目で、クラスター構造が潜在的に含まれていると仮定したデータに対して、クラスター間の回帰係数の値の差を明瞭にするような推定を行うための手法となっており、遺伝子の組み合わせで発症種類の異なる癌のデータなどの高次元データに対して、既存手法と比較してより精度高くクラスターごとの回帰係数の値を推定することが可能となっています。

今後の課題としては、ハードクラスタリングで行っていた提案手法をファジークラスタリングに適用できるように拡張すること、生存時間データの場合への応用です。

今回の受賞は私自身の研究への大きな励みになり、今後の私の研究活動に対して大きな自信にもなりました。今後、日本計算機統計学会の発展に少しでも貢献させていただけるように、更なる努力を重ねていきたい所存でありますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

「学生研究発表賞」を受賞して

東京大学大学院教育学研究科 福島 健太郎

この度は、日本計算機統計学会第 34 回シンポジウムにて学生研究発表賞をいただき、大変光栄に存じます。審査していただいた先生方をはじめ、本大会の運営に携わって下さった皆様に心より御礼申し上げます。また、平素よりご指導いただいている岡田謙介先生、並びに本発表に向けて様々なアドバイスを下さいました研究室の皆様にも深く感謝申し上げます。

本発表では、「消去法を考慮した多枝選択型認知診断モデルによる実証分析」という題目で、教育測定等において主に学習内容の修得状態の推測に用いられる統計モデルである認知診断モデルについて、拡張の提案と実証分析における結果を報告いたしました。多枝選択項目における既存の認知診断モデルは、消去法の使用がモデルとして考慮されていないため、部分的な知識のみで正答する確率を低く見積る可能性がありました。この課題を克服するため、消去法による解答プロセスをモデリングした新たな拡張を提案しました。既存モデルと提案モデルを用いてシミュレーションを行った結果、既存モデルは消去法を使用した解答の場合に学習要素修得状態の推定精度が低くなり、提案モデルは消去法の使用に関わらず一定の推定精度を維持することを示しました。また、本発表のために収集した多枝選択項目への解答データに対して既存モデルと提案モデルを適用したところ、提案モデルの方が情報量規準や修得状態の推定結果の観点から支持されることを示しました。

今回の受賞を励みにより一層精進していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

「学生研究発表賞」を受賞して

早稲田大学大学院創造理工学研究科 野中 賢也

この度は、日本計算機統計学会第 34 回シンポジウムにおいて、学生研究発表賞を賜りましたこと、大変光栄に思います。審査していただきました諸先生方をはじめ、関係者の皆様方に厚く御礼を申し上げます。また、常日頃より熱心にご指導いただいております後藤正幸先生、山下遥先生をはじめ、研究室の皆様にも深く感謝を申し上げます。加えて、本研究を進める上で協業して下さった Laboratik 株式会社の皆様にも心よりお礼申し上げます。

本研究では、「社員間コミュニケーションの類型化を可能とするグラフ構造の分散表現モデル」と題しまして、チャットアプリ上の会話履歴データから構築された社員間のコミュニケーションを表現するグラフを多次元特徴空間上に埋め込むモデルを提案いたしました。提案モデルの実際の応用方法

として、得られた埋め込み表現に対してクラスタリング手法を適用し、チャットアプリ上でなされるコミュニケーションの類型化を行いました。一方で、従来手法としては、汎用的なグラフ埋め込みモデルである Deep Divergence Graph Kernel(DDGK)に注目しました。本研究では、DDGKによって構成される埋め込み空間の軸がランダムに与えられ、確率的に軸同士の相関が強く発生する問題を解決するため、Barabási-Albert モデルから生成されたグラフを埋め込み空間の軸として与えることを提案しております。実企業の Slack 上の会話履歴データを用いた実験により、生成されたグラフを軸に用いることによって、埋め込み空間の軸同士の相関が減少することを示しました。今後の方向性として、本研究の提案モデルから得られるチームのコミュニケーション形状に関する特徴量とチームの生産性や心理的安全性を示す特徴量を統合的に分析していくことを考えております。

私は、修士課程からチャットアプリ上の会話履歴データを活用した統計的方法の研究について取り組み始めました。修士課程における 2 年間の研究の成果として、このような賞を頂けたことは、私にとって大変自信になり嬉しく思います。今後とも、実社会の問題解決に資するような統計的手法の研究・開発を目指して、今回の受賞を励みに、より一層の努力につとめ精進していく所存でございます。この度は誠にありがとうございました。

「学生研究発表賞」を受賞して

慶應義塾大学大学院理工学研究科 田村 賢太郎

この度は、日本計算機統計学会第 34 回シンポジウムにおいて、学生研究発表賞を頂きましたことを大変光栄に存じます。シンポジウムの運営に携わられた先生方をはじめ、座長を務められた方々や、審査に携わられた皆様に厚く御礼申し上げます。また、発表を聴講して下さった皆様にも、深く感謝申し上げます。私がこれまで研究を継続できたのは、共同研究者の鹿野豊先生、レイモンド・ルディー先生及び指導教官の山本直樹先生のご指導のおかげでもあります。この場を借りて、深く御礼申し上げます。

私は量子コンピュータの研究に携わることになると知らずに、現在の研究室に入りました。その研究室では前年まで量子制御という別の分野の研究が行われており、私が研究室に配属された年がちょうど研究分野の移行期に重なったためです。研究室に入って初めて研究分野が移行すると聞いた時、私は量子コンピュータと二人きりで部屋に取り残された気分でした。見知らぬ機械と部屋に取り残された私は、ただ

見つめ合っている仕方がないので、その機械と対話を試みることにしました。量子コンピュータと対話するということは、量子コンピュータにプログラムを送り、その出力を受け取ることの繰り返しです。私が最初に量子コンピュータに送ったプログラムは、乱数生成のプログラムでした。毎日のように乱数生成のプログラムを送り、0と1の比率や並びを受け取っては解析していました。その頃は研究のつもりなどなく、ただひたすら乱数を生成していました。しかし、気がつけばそれが研究テーマになっていました。本講演では「乱数生成による量子コンピュータの統計的評価」というテーマで発表をさせていただきました。乱数生成は「等確率で独立な0と1の並びを出力する」ことですが、この一見シンプルなタスクは、量子コンピュータ特有の性質を反映します。等確率であるという性質は、プログラムで指定された出力確率分布を実現する量子コンピュータの精度を、独立であるという性質は、量子コンピュータの出力が確率的であると言う基本的な性質を、そして、0と1の確率分布の変動は、量子コンピュータの安定性を表しています。このように、乱数生成によって得られた出力の統計的性質は、そのまま量子コンピュータの基本的な性質に結びついています。本講演では、乱数生成の出力を解析することを通して、量子コンピュータの基本的な性質を明らかにする手法を提案しました。初対面の頃と比べ、今では少し、量子コンピュータとの距離が縮まったような気がします。

研究に携わる人間には皆、研究テーマと二人きりで部屋に取り残される孤独な時間があるのではないのでしょうか。もし研究が孤独を伴わなくなった時、それは研究テーマを完全に理解できたということなのでしょう。しかし、それは同時に、研究の終わりをも意味するのかもしれませんが。私は現在修士2年で、研究はおろか、人生についても、右も左もわかりません。そのような中、今回このような賞をいただいたことは、そっと背中を押していただいたような気持ちです。私もやがて、迷える誰かの背中にそっと手を添えられるような研究者になりたいと思います。この度は、誠にありがとうございました。

学会からのお知らせ

日本計算機統計学会 2020 年度第 1 回ネット理事会議事録

■日時:2020 年 10 月 5 日(月) ~ 10 月 30 日(金)

(メーリングリストによる審議)

●審議事項

10 月 1 日までの会員の異動について、審議の結果、反対なく承認された。

日本計算機統計学会 第82回(2020年度第2回)評議員 会議事録

■日時:2020年11月27日(金)15:30~16:10

■場所:オンラインにより実施

■出席者(敬称略, 会長・副会長以外は五十音順):

足立浩平(会長:議長),

小木しのぶ, 山本義郎(副会長),

阿部貴行, 飯塚誠也, 石岡文生, 大石雅彦, 岡田謙介,

小田牧子, 河合統介, 清見文明, 久保田貴文,

栗原考次, 坂本 亘, 塩谷順彦, 篠津和夫, 田澤 司,

月田あづさ, 道家映幸, 富田 誠, 中川重和, 中村永友,

藤澤正樹, 村上秀俊, 山縣清壮, 山本紘司, 渡辺敏彦

委任状提出:

石橋雄一, 鎌倉稔成, 下川敏雄, 杉本知之, 瀬尾 隆,

竹内光悦, 藤野友和, 宿久 洋

陪席監事:

大槻成章, 南 弘征

陪席理事:

大草孝介, 桜井裕仁, 橋口博樹, 水田正弘, 柳貴久男,

山田隆行

●定足数の確認等

評議員会定足数 18名(過半数の出席)に対し, 出席者と委任状提出者数の合計が定足数を上回っていることが確認された。

●報告事項

◆1. 会員の異動(2020年度第1回ネット理事会)について

大草 庶務理事より, 会員の異動について, 2020年度第1回ネット理事会で審議され, 承認されたことが報告された。

◆2. 和文誌について

桜井 和文誌編集理事より, 1月から導入した新規の論文投稿・査読システムの運用状況ならびに論文の投稿・査読状況, および, 編集状況について報告がなされた。また, 既存の論文投稿・査読システムは12月末で運用を停止する予定であること, および, 前回の評議員会後に第30巻2号と第32巻1号が発行されたことについても報告がなされた。更に, 年2回の発行を維持するため, 積極的な投稿に加え, 特集の提案があれば編集委員会までお知らせ頂きたい旨の説明がなされた。

◆3. 欧文誌/JJSDについて

村上 欧文誌編集理事より, JJSDはVolume3 Issue1が予定通り6月に発行され, Issue2も12月に発刊される計画である旨が説明された。

雑誌の最新の採択率等についても報告された。

◆4. 広報活動について

柳 広報理事より, 広報活動(Newsletterの発行, mailnewsの送信, ドメインの管理)について, 計画通りに実施された旨が報告された。

◆5. 渉外活動について

清見 渉外理事より, 渉外活動(協賛およびwebバナー広告の依頼等)について, 計画通りに実施された旨が報告が行われた。

◆6. 第34回大会の報告

山本義(第34回大会オンライン実行委員長)より, 大阪府立大学中百舌鳥キャンパス(兵頭 昌 実行委員長)で開催予定であった第34回大会は新型コロナウイルスの感染拡大のために2020年5月30日(土)~31日(日)に完全オンラインで開催された旨が報告された。

報告者・参加者数等についても報告がなされた。

◆7. 統計関連学会連合理事会・組織委員会の報告

足立 会長より, 9月に開催された統計関連学会連合理事会・組織委員会の報告として, 以下の内容が説明された。

・今年度の連合大会は, 8/1の連合理事会・組織委員会にて完全オンライン開催が決定された。

・大会の参加者数は957名, チュートリアル登録者は391名など盛会であった。

・2021年度の連合大会は長崎大学で, 今年度と同じ5日間の日程(2021年9月5日(日)~9日(木))で開催される。

・実行委員長は, 西井先生(長崎大学), 運営委員長は久保田先生(多摩大学), プログラム委員長は坂本先生(岡山大学)。

さらに, 次年度連合大会には, 本学会から次の委員を推薦することを確認した。

[連合大会プログラム委員] 兵頭 昌(神奈川大学), 川野 秀一(電気通信大学)

[連合大会運営委員] 阿部寛康(京都大学), 作村建紀(法政大学)

◆8. 若手セミナーの報告

岡田 若手奨励理事より, 2020年9月6日(日)~7日(月)にオンラインで開催された若手セミナーについて, 報告者・参加者, 会計, 参加者アンケートの集計結果等の報告がされた。

◆9. 2020年度 計算機統計セミナーについて

藤澤 企画理事より, 2020年度の第1回の計算機統計セミナーについて, テーマや参加者等について報告がなされた。

合わせて、第2回および第3回計算機統計セミナーについて、講師・テーマの紹介がなされた。

◆10. 2021-2022年度 会長・副会長・評議員選挙の報告

山本(紘) 庶務理事より、2021-2022年度 会長・副会長・評議員選挙の結果について、9月14日に開票作業が行われた旨、および、会員各位へ結果を郵送で報告した旨、報告が行われた。

◆11. 第35回大会の準備状況

藤澤 大会担当理事(第35回大会実行委員長)より、別府国際コンベンションセンターで開催予定の第35回大会(2021年6月3日(木)~4日(金))、評議員会は6月2日(水)の準備状況等について、報告がなされた。

●審議事項

◆1. 2019年度スタディー・グループ活動報告について

阿部 庶務理事より、2019年度スタディー・グループ4件の活動報告・会計報告について説明がなされ、審議の結果、いずれの報告も承認された。

◆2. 第35回シンポジウムについて

足立 会長より、第35回シンポジウムを星野 実行委員長(慶應義塾大学)のもと、2021年11月に慶應義塾大学三田キャンパスで開催したい旨の提案があり、審議の結果、承認された。併せて、星野 崇宏 実行委員長を企画理事(大会担当)に推薦する旨の提案があり、審議の結果、承認された。

◆3. 次期評議員会への引き継ぎ事項について

足立 会長より、本評議員会構成員の任期は本年末までであることから、次期評議員会に引き継ぐべき事項について照会があり、引き継ぎに特段の問題がない旨が確認された。

●連絡事項

◆1. 第34回シンポジウムについて

山田 大会担当理事(第34回シンポジウム実行委員長)より、同シンポジウムについて、翌日以降の予定について説明が行われた。

日本計算機統計学会 第83回(2021年度 第1回)評議員会議事録

■議長: 小木 しのぶ(2021年度会長, 株式会社NTT データ数理システム)

■日時: 2020年11月29日(日) 15:00~16:00

■場所: Zoom にて開催

出席者 (敬称略, 会長・副会長以外は五十音順):

小木しのぶ(会長・議長),
宿久 洋, 山本義郎, 渡辺敏彦(副会長),

足立浩平, 阿部貴行, 飯塚誠也, 石岡文生, 石橋雄一,
五十川直樹, 大石雅彦, 大草孝介, 岡田謙介,
鎌倉稔成, 栗原考次, 坂本 亘, 塩谷順彦, 下川敏雄,
田澤 司, 道家暎幸, 富田 誠, 中川重和, 永久保太士,
藤澤正樹, 丸尾和司, 山縣清壮, 米山昭成

委任状提出:

河合統介, 久保田貴文, 佐藤耕一, 篠津和夫, 瀬尾 隆,
竹内光悦, 月田あづさ, 橋口博樹, 藤野友和

●定足数確認:

評議員会定足数 19名(過半数の出席)に対し、出席者と委任状提出者数の合計が定足数を上回っていることが確認された。

●開会の前に:

◆1. 2019-2020年度会長の足立先生より、挨拶が行われた。

◆2. 新三役の先生方より、挨拶が行われた。

■議題:

●審議事項

◆1. 2021-2022年度 学会理事・監事の選出について

小木 会長より 2021-2022年度 学会理事・監事について下記のように提案があり、審議の結果、承認された。

また、正式には来年5月の総会に於いて正式決定となる旨、小木 会長より確認された。

—

○企画:

河合統介(ファイザー(株)), 酒折文武(中央大学),
藤澤正樹(あすか製薬(株)), 山本由和(徳島文理大学)

○企画(大会・シンポジウム担当):

藤澤正樹(あすか製薬(株)), 星野崇宏(慶應義塾大学)

○庶務:

阿部貴行(横浜市立大学), 大草孝介(横浜市立大学),
岡田謙介(東京大学)

○会計:

石岡文生(岡山大学), 土田 潤(東京理科大学)

○会誌編集

・和文誌:

桜井裕仁(大学入試センター),
富田 誠(横浜市立大学), 山田隆行(島根大学)

・欧文誌:

橋口博樹(東京理科大学), 宿久 洋(同志社大学)

○国際交流:

坂本 亘(岡山大学), 下川敏雄(和歌山県立医科大学),
水田正弘(北海道大学), 森 裕一(岡山理科大学)

○広報:

飯塚誠也(岡山大学), 川崎玉恵(東京理科大学),
小泉和之(横浜市立大学), 弘新太郎(ファイザー(株)),
藤野友和(福岡女子大学)

○渉外:

大槻成章(株)日本統計技術研究所,
小田牧子(防衛医科大学校),
栗林和彦(バイオジェン(株)), 竹内光悦(実践女子大学)

○将来計画:

足立浩平(大阪大学), 大石雅彦(MSD(株)),
栗原考次(岡山大学)

○若手奨励:

杉本知之(滋賀大学), 丸尾和司(筑波大学),
村上秀俊(東京理科大学), 山本紘司(横浜市立大学)

○監事:

清見文明(九州臨床研究支援センター),
南 弘征(北海道大学)

—

◆2. 2021 年度 新入会員キャンペーンの実施について(資料2)

大草 庶務理事より, 2021 年度 新入会員キャンペーンの実施について報告があり, 審議の結果, 承認された。

◆3. 2021 年度 事業計画(原案)について(資料3)

大草 庶務理事より, 2021 年度 事業計画(原案)について報告があり, 審議の結果, 以下の内容について承認された。なお, これは原案であり, 来年の早い時期に理事会を開催し, そこで案として確定させ, 再度評議員会で確認ののち, 総会で承認されるものであることが小木 会長より確認された。

—

○1. 大会およびシンポジウムの開催

第 35 回大会を 2021 年 6 月 3 日(木)~4 日(金) に別府国際コンベンションセンター(B-Con Plaza) (大分県別府市) で開催する(藤澤正樹 実行委員長)。第 35 回シンポジウムを 2021 年 11 月 13 日(土)~14 日(日)もしくは 11 月 27 日(土)~28 日(日)慶應義塾大学(東京都)で開催する(星野崇宏 実行委員長)。

大会・シンポジウムの実施については新型コロナウイルスの状況を見て柔軟に対応を行う。

○2. 和文誌, 欧文誌の発行

和文誌は, 第 32 巻 2 号, 第 33 巻 1,2 号, 第 34 巻 1,2 号の編集・発行を行う。

欧文誌は, 統計関連学会連合の欧文誌 JJSD の編集・発

行に主体的に参画する。

○3. ニュースレターおよびメールニュースの発行

ニュースレターは No.73, 74 を発行し, またメールニュースを随時希望する会員に送信する。

○4. 総会の開催

第 35 回総会を, 第 35 回大会開催中の 2021 年 6 月 3 日(木) に別府国際コンベンションセンターにて開催する。総会の実施については新型コロナウイルスの状況を見て柔軟に対応を行う。

○5. 評議員会, 理事会, その他各種委員会の開催

評議員会は第 84 回を 2021 年 6 月 2 日(水)に別府国際コンベンションセンター(第 35 回大会)で, 第 85 回を 11 月 12 日(金)もしくは 11 月 26 日(金)に東京都内で開催する。実施については新型コロナウイルスの状況を見て柔軟に対応を行う。

また理事会および各種委員会(和文誌・欧文誌編集委員会, 広報委員会, 企画委員会, 学会賞委員会, その他必要な委員会)を随時開催する。

○6. 学会賞の表彰

2020 年度の学会賞授賞者を決定し, 第 35 回総会の中で表彰する。

○7. フェロー称号の授与

2021 年度のフェロー認定者に, 日本計算機統計学会フェローの称号を授与し, 認定書を交付する。

○8. スタディー・グループの推進

2021 年度のスタディー・グループの募集を行い, その活動を推進する。

○9. 2021 年度計算機統計セミナーの実施

2021 年度計算機統計セミナーについて検討し, 成案が得られ次第, 実施する。

セミナーの実施については新型コロナウイルスの状況を見て柔軟に対応を行う。

○10. 若手セミナー(合宿形式)の実施

若手研究者・学生を対象にセミナー合宿の開催について企画し, 成案が得られ次第, 実施する。若手セミナーの実施については新型コロナウイルスの状況を見て柔軟に対応を行う。

○11. 2022 年度総会の開催地の決定

2022 年 5 月に開催する第 36 回総会の開催地を決定する。

○12. 渉外活動

日本学術会議協力学術研究団体としての活動, 統計関連

学会連合をはじめとする各学会連合の会員としての活動を行う。

○13. 2021 年度統計関連学会連合大会

2021 年 9 月に開催される統計関連学会連合大会(長崎大学)に、本学会企画セッションを計画するなど、主体的に参加する。

○14. 35 周年記念事業について

35 周年記念事業を企画立案し実行する。

○15. IASC-ARS2022

2022 年 2 月に開催される国際会議 IASC-ARS2022 (同志社大学)を共催し、人的なサポートなどを行う。

—

●報告事項

◆1. 統計関連学会連合ならびに同大会関連委員等の選出について

小木 会長より統計関連学会連合ならびに同大会関連委員等の選出について、下記の通り報告がなされた。

連合大会:長崎大学(長崎県)

プログラム委員:川野秀一(電気通信大学), 兵頭 昌(神奈川大学)

運営委員:作村建紀(法政大学), 阿部寛康(京都大学)

◆2. その他

藤澤正樹 第 35 回大会実行委員長より、第 35 回大会および評議員会の会場などについて報告がなされた。

新入会員(敬称略)

【正会員】

【学生会員】

現会員数(2020 年 10 月 1 日現在)

正会員数(国内・海外)	480
学生会員	69
賛助会員	23
合計	572

学会・研究会のお知らせ

【開催予定一覧】

【国内】

・日本計算機統計学会 第 35 回大会

会場: 別府国際コンベンションセンター(大分県別府市)+
オンライン(ハイブリッド開催)(予定)

日程: 2021 年 6 月 3 日(木)~4 日(金)

<http://jcs.jp/conf/taikai35/>

・2021 年度 統計関連学会連合大会

会場: 長崎大学文教キャンパス(長崎県長崎市)+オンライン
(ハイブリッド開催)(予定)

日程: 2021 年 9 月 5 日(日)~9 日(木)

(9 月 5 日(日)は、チュートリアル・市民講演会(オンライン)のみ。)

<http://www.jssa.jp/taikai/2021/>

・IASC-ARS2022

会場: 同志社大学今出川キャンパス(京都府京都市)+
オンライン(ハイブリッド開催)

日程: 2022 年 2 月 21 日(月)~24 日(木)

<https://iasc-ars2022.org/>

【国外】

•useR! 2021 : The R Conference

会場:online

日程:2021年7月5日(月)~9日(金)

<https://user2021.r-project.org/>

•The 14th International Conference of the ERCIM WG on Computational and Methodological Statistics (CMStatistics 2021)

会場:King's College London, UK. + online (hybrid)

日程:2021年12月18日(土)~20日(月)

<http://cmstatistics.org/CMStatistics2021/>

◆2021年度計算機統計セミナーについて

日本計算機統計学会では、計算機統計学の普及・発展の一環として、2009年より計算機統計セミナーを実施しております。今年度のセミナーにつきましては現在企画中ですが、決まり次第以下のURLおよび、メールニュースにて随時お知らせいたします。

URL:<http://jcs.jp/学会の活動/計算機統計セミナー/>

和文誌編集委員会からのお知らせ

◆特集「スポーツ統計」の論文募集について

和文誌編集委員会では、和文誌「計算機統計学」における特集として「スポーツ統計」に関する論文投稿を受け付けます。

近年、スポーツの分野においてデータを活用した強化の活用例が多く見られるようになり、計算機統計学がスポーツの分野に果たす役割が期待されています。日本計算機統計学会では、2018~2020年度にスタディー・グループ「スポーツアナリティクスの進化に向けた計算機統計学的方法の開発と応用」が設置され、この研究テーマに関する成果が大会やシンポジウムで報告されています。

本特集では、

- スポーツデータを分析するための新たな分析法の提案
- スポーツデータからの実証分析
- スポーツ分野のデータを収集する技術の共有
- スポーツデータを活用しての統計教育

など、スポーツ分野への計算機統計学の貢献を内容とする投稿を募集します。多くの投稿が寄せられますことを期待します。

なお、本特集の投稿論文の採否は、通常の査読プロセス

により決定されます。

投稿期限:2021年8月31日

募集する投稿区分:すべて(原著論文, 総合報告, ソフトウェア記事)

投稿区分に関する詳細は、投稿規定を参照ください。

発行:2022年5月(予定)

原稿送付先:論文投稿・査読システム

<https://www.editorialmanager.com/bcsj/>

オーガナイザー:酒折文武(中央大学)・山本義郎(東海大学)

本特集に関する問い合わせ先:wabun-sports@jcs.jp

広報委員会からのお知らせ

◆ニューズレターでの広告掲載について

本ニューズレターでは広告の掲載を募集しております。広告掲載をご希望の会員は、渉外理事(shougai@jcs.or.jp)までお問い合わせください。なお、ニューズレター以外の媒体(和文誌および計算機統計セミナー関連)の広告掲載に関するお申込・お問い合わせも、上記のe-mailアドレスにて随時受け付けています。

また、学会ウェブページ上(<http://www.jcs.or.jp/>)において、バナー広告による広告掲載を行っております。こちらにつきましても渉外理事までお問い合わせください。なお、大会およびシンポジウムについては各大会の事務局へお申し込みください。

事務局からのお知らせ

◆会費納入のお願い

先日、会員の皆様には2021年度会費振込用紙を送付しました。会費の納入が滞ると学会運営に大きく影響しますので、忘れずに納入していただきますようお願いいたします。会費のお支払いは、下記の口座への振り込みのほか、クレジットカード払いも可能です。

詳細は会費振込用紙と一緒に送付した「会費納入のお願い」をご覧ください。なお、複数年にわたって滞納されますと、評議員会の議を経て除名されることがありますので、ご注意ください。

【口座名義(両方とも)】日本計算機統計学会

《ゆうちょ銀行》口座番号:00180-0-537374

《銀行》三菱UFJ銀行 青山支店

普通口座:5284324

◆高齢者会員の会費割引について

本会では、主として退職された会員を対象に会費割引の制度を設けています。

(1) 60歳の誕生日を過ぎていること

(2) 会誌(和文誌・欧文誌)の配布を希望しないこと

の両方を満たす場合、お申出により会費が割引(7,000円 → 2,000円)となります。会費割引には評議員会での承認が必要となりますので、ご希望の会員はお早めに事務局にお申出ください。

◆2021年度の新入会員の特典について

2021年度に学生会員または賛助会員として新規に入会された新入会員は、入会特典を受けることができます。統計科学に関する研究を行っている学生の方がお近くにいらっしゃいましたら、ぜひこの機会に入会をお誘いください。

また、学会では賛助会員のために様々な形で計算機統計学に関する情報の提供・交換の場を設けています。会員の皆様には、統計科学とその周辺領域、コンピュータなどに関係のある企業・団体をお誘い、あるいはご紹介くださいますようお願いいたします。

入会特典の詳細につきましては、学会ウェブページの <http://jscs.jp/入会のお誘い/新入会員特典/> をご覧ください。

◆会員情報の変更について

所属変更等をされた会員の方は、お手数とは存じますが、学会への変更の届出を忘れずをお願いします。届出を忘れると郵便などによる学会からの連絡が届かなくなってしまうます。学生会員の方で今年就職をされた方は、今年度から正会員となりますので、必ず新しい所属・連絡先をお知らせください。

会員情報に変更のある会員の方は、学会事務局 (office@jscs.or.jp) 宛に電子メールで変更点をお知らせください。

ご理解、ご協力をいただけますよう、お願い致します。

◆休会制度、種別変更猶予制度について

本会では、休会制度および種別変更猶予制度を設けています。

「休会制度」は、会員に特段の事情が認められる場合、理事会の承認を経た上で、会員資格の停止とともに、会費を徴収しないことができることとした制度です。

「種別変更猶予制度」は、学生会員が学生としての身分を失い正会員に移行する際に、経済的事由などにより正会員として学会に所属することが著しく困難であると理事会で認められた場合、引き続き「学生会員」として所属できることとした制度です。

本制度は、年度単位で適用されます。希望される会員は、事務局までご照会ください。なお、本制度に関わる申し合わせは、

<http://jscs.jp/face/rules/kyukai.html/>

からご覧いただけます。

◆スタディー・グループ募集のお知らせ

2021年度のスタディー・グループを募集しています。スタディー・グループとは、計算機統計学およびその周辺分野から重点的な研究テーマを募集・選定し、そのテーマに関する研究活動(最大3年間)を奨励する制度です。評議員会で設置が認められると、学会から1グループあたり年間最大5万円の補助金が受けられます。スタディー・グループの設置を希望されるグループの代表の方は、必要事項を明記した設置申請書を学会事務局にお送りください(E-mail, FAX, 郵送いずれも可)。応募締切は4月30日(金)(必着)です。なお、スタディー・グループの概要および申請方法・様式等につきましては以下のウェブページをご覧ください。

<http://jscs.jp/学会の活動/スタディーグループ/>

広報委員会

(五十音順、*印は理事、+印は今号編集担当)

飯塚 誠也*(岡山大学)
石岡 文生(岡山大学)
大草 孝介(横浜市立大学)
川崎 玉恵*(東京理科大学)
黒沢 健+(東京理科大学)
小泉 和之*(横浜市立大学)
下川 朝有+(東京理科大学)
姫野 哲人+(滋賀大学)
弘 新太郎*(ファイザー(株))
藤野 友和*(福岡女子大学)
山田 実俊(東海大学)

	日本計算機統計学会への入会のお誘い	
--	-------------------	--

日本計算機統計学会事務局

日本計算機統計学会では、随時新入会員を募集しております。会員の皆様の近隣で計算機統計学に興味のある方がいらっしゃいましたら是非入会をお勧めください。個人会員、賛助会員ともに入会いただくと、さまざまな特典がありますが、2021年度の入会については、学生会員および賛助会員に更なる特典があります。

2021年度の入会特典について

【期間】 2021年度(2021年1月1日～12月31日)

【対象】 対象期間内に新規に学生会員または賛助会員として入会申込を行い、初年度年会費を納入した新入会員
(初年度年会費の納入が確認された時点で特典の権利が発生します)

<特典>

- 新規学生会員の大会またはシンポジウムの参加費無料(1回限り)
- 新規賛助会員の学会発行物への広告を口数に応じて無料掲載

入会特典についての詳しい内容は学会ウェブページをご覧ください。

<http://jscs.jp/入会のお誘い/新入会員特典/>

<お問合せ・連絡先>

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
(公財)統計情報研究開発センター内 日本計算機統計学会事務局
TEL:03-3234-7580(平日9:30~17:00)
FAX:03-3234-7580
E-mail: office@jscs.or.jp
URL: <http://www.jscs.jp/>